

人が人として大切にされる社会をめざし
保健・医療・介護の事業と運動をとおして
様々な人たちと手をつなぎあい
平和とくらしを守り
健康で笑顔あるまちをつくります

医療生協さいたま 私たちのこころ

 医療生協さいたま

発行元：所沢診療所（2024年3月発行）
〒359-1143 埼玉県所沢市宮本町2-23-34
Tel. 04-2924-0121（代）
<https://tokoshin.mcp-saitamawest.jp/>



 医療生協さいたま

70周年に寄せて...

新たな歴史を一緒に

所沢診療所が開設70周年を迎えました。地域の皆様から長きにわたってご支援いただき、地域から愛され信頼される診療所に育てていただいたことに深く感謝を申し上げます。また、様々な困難がある中、診療所の医療と介護事業を発展させてきた現職員ならびに歴代職員の皆様方にも感謝を申し上げたいと思います。

医療生協の診療所の役割は、質の高い医療・介護を提供するだけではありません。日常の困りごとを解決したり、いろいろな方々と交流したり、様々な願いを実現する場でもあります。安心して暮らせる街づくりの拠点として皆様と一緒に発展させていきたいと思ひます。そのためには、環境問題や平和の問題など地球や世界全体も視野に入れながら、あたたかい、やさしいまなざしを持ち続けることが大切です。様々な差別や格差が世の中に存在する中で、いのちの平等を貫くことが本当に求められています。

この70年という長い歴史を大切にしながら、新たな歴史を作ること、ぜひお付き合いいただきたいと思ひます。



医療生協さいたま
理事長
雪田 慎二

地域とともに70年

2020年1月に始まった新型コロナウイルスによる世界的パンデミックは、医療だけでなく社会全体に大きな影響を及ぼしました。そんな中、所沢診療所が医療と介護のサービスを継続することができたのも、組合員や地域の協力あってこそと思っています。感染防御の物品不足では、地域の皆様にご多大なご支援をいただきました。改めて感謝申し上げます。

思い起こせば私が所沢診療所に入職したのが2015年1月、早9年が経ち、この間在宅医療の充実に力を注いでまいりました。今後日本が向かう超高齢化社会において、医療生協の診療所として、単に医療と介護のサービスを提供するにとどまらず、これまで以上に地域の医療機関や介護・福祉関係者、行政など協力しあい、健康なまちづくりに取り組んでいかなければなりません。これからも「住み慣れた自宅で安心してくらしたい」の願いに答えるべく、職員一丸となって地域医療に貢献していく所存です。地域・組合員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

所沢診療所
所長
中村 隆光



70年間の笑顔と、これからの笑顔をつなぐ。

たくさんの方に支えられ、所沢診療所は70周年を迎えました。前回の記念誌から10年、様々な出来事がありました。そんな10年間を支えていただいた皆様の笑顔と共に振り返り、これから先の未来の笑顔に繋げていきたい。そんな思いでこの記念誌を制作しました。ぜひゆっくりと10年間の変化をご覧ください。

開設70周年記念健康まつりを開催して



西部Bブロック理事
霜田 愛子

2023年11月19日所沢診療所開設70周年記念健康まつりは、素晴らしい秋晴れに恵まれ、多くの方にご来場いただき大盛況でした。特にステージでは地元重松流のお囃子に始まり、組合員による歌やダンスやパフォーマンスなど多才な芸を披露いただきました。これからも所沢診療所は地域の皆様とともに健康と笑顔を届けられる場所でありたいと思ひます。



所沢診療所事務長
小林 曜子

地域の皆様、組合員さんのご協力により健康まつりを4年ぶりに開催することができました。毎年楽しみにしていた方も多く、700名を超える方にお越しいただき、イベントを盛り上げていただきました。これからも安心して住み続けられるまちづくりのため、生協としての役割を発揮していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

所沢診療所のこの10年のあゆみ

この冊子では、次の世代へと繋いでいくために、ここ10年の変化にスポットをあて記録し、振り返ります。新しいことにチャレンジし続けた所沢診療所10年の軌跡です。



2014.10 暮らしサポーター

2015.02 無料低額診療事業が開始

暮らしを支える2つの事業が開始。“くらサポ”は生協ならではの組合員同士の助け合い。“無低診”はお金の心配せずに医療にかかれる制度、いのちの相談所として患者を受け入れています。



2016.04 機能強化型在宅療養支援診療所

24時間体制での在宅医療の提供を積極的に担う体制が整ったため、“機能強化型”の届出を行いました。自宅での看取り件数も10年で10倍に!



2016.07 フードドライブ開始

西部で始まったフードドライブは、無料低額診療事業とともに困難な方に寄り添う大事な活動となりました。食品の寄付も常に集まるようになり、フードロスの改善にもつながっています。



2013

2023

2015.12 介護付有料老人ホーム 桂の樹開設

診療所の隣地に念願でもあった法人初の介護付有料老人ホームが開設しました。組合員の想いのこもった住まいの事業がスタートしました。



2015.12 通所リハビリテーション 結(ゆい) 開設

桂の樹と同時に、1階には診療所附属施設として通所リハビリテーションが開設しました。短時間リハビリに特化した施設で、運動を中心としたリハビリを行い、組合員の在宅生活を支えます。



2017.03 多世代参加型子ども食堂 桂の食卓~桂ん家

地域の孤立や孤食をなくしたい!の思いから、誰でも参加できる多世代参加型の子ども食堂を開始。「みんなで一緒にごはんを食べよう!」を合言葉に月1回開催、コロナ禍でもお弁当のテイクアウトに切り替え継続しました。



2020.10 埼玉県指定診療・検査医療機関(発熱外来) 設置

新型コロナウイルスの流行に対応するため県の指定を受けて設置。通常の外来診療とは別に患者を受け入れてきました。

これまでの軌跡も忘れないように
60周年記念冊子がスマホで見られるようになりました!

診療所の始まりから60年までの所沢診療所の様子をまとめた「60周年記念冊子」はこちらのQRからスマホでご覧いただけます。今回の10年の軌跡と合わせて、ぜひご覧ください。



所沢診療所を支えた“4人のキーマン”と振り返る10年間

所沢診療所のこの10年間を支えてくださった方々とともに軌跡を追っていきます。それぞれの場所、人々に込められた想いをご覧ください。

01 所沢診療所 副所長 福庭 勲さん

Q.10年間の想いを教えてください。

2006年の新築移転時、組合員と職員でどういう診療所を作るか?ということを中心に議論し、私が出した「健診センターを作る」は当初、2階を健診センターにすることで叶えられました。しかしケアセンターとこしんの移転に伴い、機能は縮小されましたが、現在の受診者増や医療と介護の一体的な提供の礎にもなり、結果診療所の発展につながったと思います。「フィットネス構想」は2015年通所リハビリテーション結が開設された際、開始することができたので良かったと思います。以前は医療懇談会を航空公園の茶室を貸し切っておこなったり、健診結果返しに出かけたりして地域に出ることが多く医療生協らしい活動は良い思い出です。

Q.これからの10年の目標

地域での活動を通じて多世代が生協の活動に関わってくれるようになっていいと思います。在宅も次を担う医師を増やし、まだまだ増える需要に応えたいし、僕も体が許す限り生涯現役医師として医療生協で勤務したいと思います。



02 所沢第一支部 支部長 尾上 清数さん

Q.10年間の想いを教えてください。

私が組合員活動に積極的に参加しはじめたのはちょうど10年前からです。きっかけは当時リレー訪問で我が家を訪れてくださった組合員からの勧めでした。その根底には、医療生協が法人の基本理念として「人が人として大切にされる社会をめざし……」と謳われており「私たちは、いのちと人権を脅かす戦争や政治に反対し行動します。」などの行動指針が具体化され、医療機関には珍しく日本国憲法の精神を盛り込んだ法人の基本理念が目立っていました。私もこのような環境の中で自分のできることをやってみようと軽い想いで参加しましたが、先輩たちは既にこの精神に基づき、自分たちの医療機関としての自覚をもって、熱心に組合員活動に取り組んでおられ圧倒されたものでした。

Q.これからの10年の目標

70年の長きにわたり市民の医療と健康を守るために歴史をつくってきた自分たちの医療機関を守るために、これからもこれまでに出会えた素晴らしい仲間とともに、できる限り頑張っていこうと思います。



03 前所沢診療所 MC(まちづくりコーディネーター) 清水 良浩さん

Q.10年間の想いを教えてください。

2008年所沢診療所に異動した当初は医事課主任としての配属でした。その後組織担当となり、10年以上、組合員・地域の皆さまと一緒に仕事をさせていただきました。この10年間で役割は大きく変化し、地域に向けた視点や新たなつながりの構築に努めた10年だったと感じています。フードドライブから発展した子ども食堂「桂の食卓～桂ん家」は、地域の居場所として定着し、地域ケア会議では社協や地域の様々な諸団体・企業と連携することができました。所沢の地でMCとして長く勤務出来たことは自身にとって本当に大きな財産です。

Q.これからの10年の目標

組合員の高齢化が顕著です。新たなつながりを構築し、その土台から新しい協力者が生まれる・生み出す道半ばで所沢から離れることとなりましたが、所沢で培った地域でのつながり・ひろがり大井(ふじみ野市)でも実践したいと思います。



04 患者・利用者 安田 エミ子さん

Q.10年間の想いを教えてください。

初めに夫が医療生協に出会い、長年夫婦で活動に参加してきました。亡くなった夫は自分のことよりもっと大きな事(社会全体)を考える人で、夫を尊敬しています。山口荒幡支部では毎月「歩こう会」を開催するなど、仲間と協力した思い出たくさんあります。夫の介護など色々ありましたが、今も安心して所沢診療所にかかっています。結のリハビリに参加すると、体を動かす効果を実感します。一人ではなく皆でやるのが励みになります。皆さんにもすすめていきたいです。

Q.これからの10年の目標

医療生協がもっと発展して欲しい。皆さんが健康で楽しく過ごしていくことができればあわせてです。自分も周りの人と協力して生き生きと暮らしていきたいです。自分が所属している医療生協支部がどんな活動をしているか知らない方も多いので、知らせることが必要だと感じています。





地域を支え所沢診療所を大きく前進させた在宅医療

ここ10年での変化のなかで一番大きいものが在宅医療ではないでしょうか。2016年に機能強化型在宅支援診療所となり『満足度の高い訪問診療』をめざし質の向上に取り組んできました。近年は管理人数130~140人程となり大幅に増えました。一人一人の思いに寄り添いながら、24時間365日患者さんとご家族が安心して住み慣れた地域、家での生活が継続できるようにお手伝いをさせていただいています。

所沢診療所 管理看護師 坪井 恵美

所沢診療所の在宅医療が実現した地域貢献

「さいごまで家にいたい。」を叶える在宅医療

診療所では毎年40人前後を自宅でお看取りしています。その人らしいさいごを実現するためにACP(アドバンスケアプランニング)を重視しています。一人暮らしでも短時間でもとにかく家でさいごを迎えたい。大切な人との大切な時間を有意義に過ごしたい。『さいごまで家にいたい。』を叶えられる診療所でありたいと日々奮闘しています。



医療と介護の一体的な提供“ケアセンターとこしん”との連携のこと

同一建物にケアセンターとこしんがあることで連携がとりやすく、医療と介護が一体となって提供できます。たくさんの在宅患者さんを一緒に支えてきました。また埼玉西協同病院や、老人保健施設さんとのつながりがあることで、急な入院・入所も相談でき、医療生協のサービスで在宅を支えることができる環境はとてありがたく思っています。



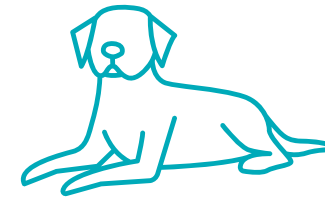
在宅医療を支えるスタッフたち。みんなで「生ききる」を支援

医師だけでは在宅医療は支えられません。在宅担当事務、在宅担当看護師、運転手さん。心強い在宅チームのメンバーです。



ごんた物語 さいごまでごんたをいたい。

一人暮らしでがん終末期のAさん。ペットの犬(ごんた)とさいごまで一緒にいたいという希望がありました。散歩に行けなくなったAさんの代わりに、医師、看護師、ケアマネ、組合員が協力し、ごんたの散歩をしました。さいごはごんたに見守られ静かに自宅で息を引き取りました。『どこで過ごすか』はもとより『どのように過ごしたいか』を学んだ事例でした。



奇跡の花嫁

娘さんの結婚式に出席するために退院の準備をしていたBさん。状態が急変し、移動もどうか・・・?という状態でしたが、なんとか退院。娘さんが自宅の花嫁衣装を着てBさんに見せることができました。その日の夕方自宅でお亡くなりになりました。



想いを紡いだ 奇跡の エピソード



自宅で入浴ができないCさん。夏になると皮膚が汚れてただれ、西協同病院に入院しなければならぬ状態でした。「自宅で入浴できるようにしよう。」と組合員の力をかりて、引っ越しのお手伝いをしました。引っ越し後は訪問入浴を導入し、皮膚もきれいになり、入院することもなく過ごせました。『座自宅の環境を見る、整える。』ことを学んだ事例でした。

組合員の力を借りて



無料低額診療で訪問診療に入りました。初回の訪問で血圧を計ろうとした際に腕をぎゅっと丸めて「何もなくていい。」と頑なだったDさん。「私たちが往診してもお金はかかりませんよ。」と伝えるとゆっくり腕を伸ばしてくれました。パンやインスタントラーメンなどが主食だったため、組合員がお弁当を作ったり、桂ん家のお弁当を配達したりしながら、在宅を支えました。

生協の仕組みで支えて



協力して困りが解決に向かう時。

平井千鶴子



家族の笑顔を見た時。あたためた布団に入った時。

中村景子



家族と一緒にいる時。子どもの成長を感じた時。

加藤由希



美味しい物を食べた時、家族が笑っている時、ビールを飲んだ時。

白井和子



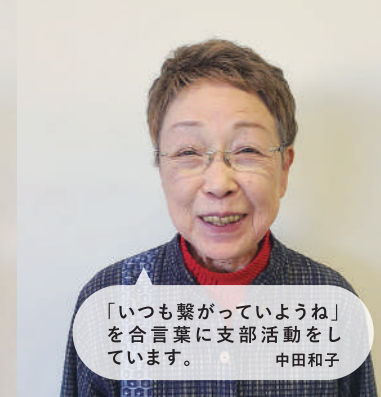
運営委員30年。支部ニュース書いて29年。長い付き合いですね！

山久地敏子



新聞ちぎり絵での出会いで大きく変わりました！出会いに感謝。

岡部黄句子



「いつも繋がっているね」を合言葉に支部活動をしています。

中田和子



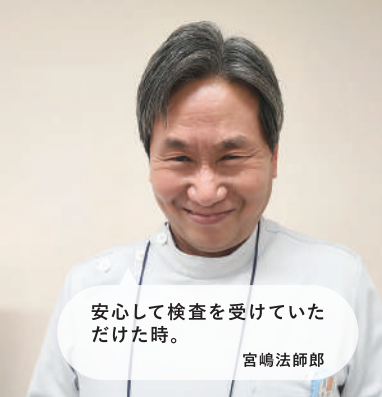
できる範囲で無理のないように楽しく活動しています。

篠裕美



患者さんから、あなたに会うとホットするわ！と言われた時。

熊久保栄子



安心して検査を受けていただけました時。

宮嶋法師郎



薬の説明を通して納得して安心してもらえた時は嬉しいです。

澤辺由美

10年分の笑顔と共に、次の10年へ

所沢診療所に
この10年の笑顔を

関わる様々な方の
紹介していただきました。



**この10年の笑顔を
紹介します。**

まちづくりコーディネーター
柴田大介



みんなで支え合って、和やかで楽しい時間を過ごす時。

橋本朝子



診療所や西協同でよかったと聞いた時に、そして加入や増資をいただいた時

石井喜久枝



支部ニュース、皆の願い運び広げて育み合って繋げてきたよ。

山口健司



美味しいご飯を家族や仲間と一緒に食べている時が幸せです。

武石聖



利用者さんから笑顔を褒められて、もっと笑顔が増えました。

遠藤茜



同期会！久々の笑顔が大集合。次回の笑顔に向けてカンパ〜イ！

岡田和広



三ヶ島支部は、参加して楽しめる行事を毎月やりたいと思います。

富宇賀孝



運営委員会、利用委員会、桂ん家の人達と遭うことが私の喜び

森下千鶴子



多世代食堂の弁当配布時に行き交うありがとうに笑顔が…。

湯浅信子



患者さんから「ありがとう」の言葉をもらった時です。

飯田舞



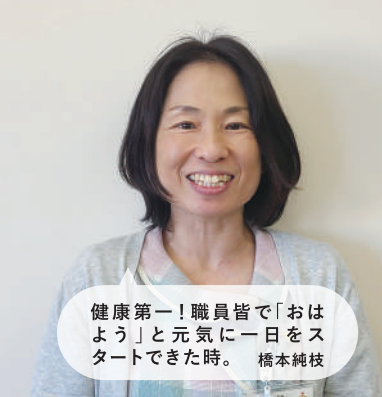
久しぶりの健康まつりの開催で皆さんと交流ができて楽しかったです。

中村久美



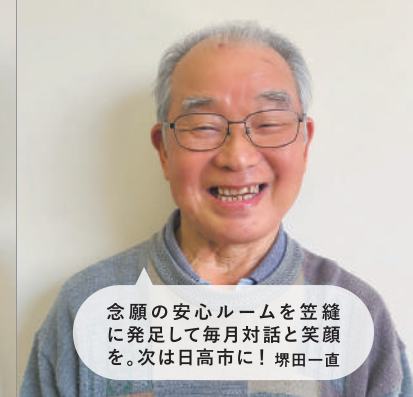
患者さんから「頑張ってるね」と声をかけていただいた時

指田秀子



健康第一！職員皆で「おはよう」と元気に一日をスタートできた時。

橋本純枝



念願の安心ルームを笠縫に発足して毎月対話と笑顔を。次は日高市に！

堺田一直



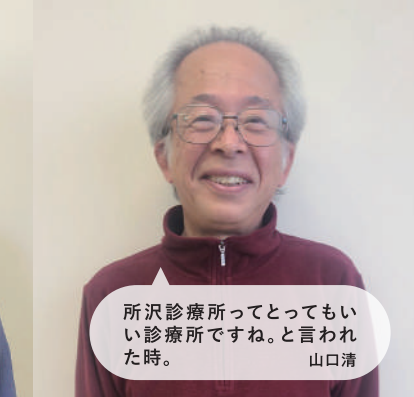
活動を通して新しい人と知り合えた時。心の財産が増えました。

藤原京子



ボランティア楽しくなければ続かないをモットーに7年。これからも。佐藤三枝子

佐藤三枝子



所沢診療所ってとってもいい診療所ですね。と言われた時。

山口清